

ユニバーサルデザインで みんな楽しい!みんな分かる!みんなできる!

このリーフレットは、特別な支援を要する児童生徒が小学校や中学校、高等学校、特別支援学校等の全ての学校で自己実現できるように作成しました。教職員の方々が実践への手がかりを得ることができる内容になっています。教員ならば誰もが知っている基礎的な内容になりますが、大切なのは、全教職員が共通理解をし、統一して実践することです。そのことにより、全ての児童生徒たちにとっての学びやすさにつながる「ユニバーサル」なデザインになります。



子どもが変わる!
学級が変わる!
学校が変わる!

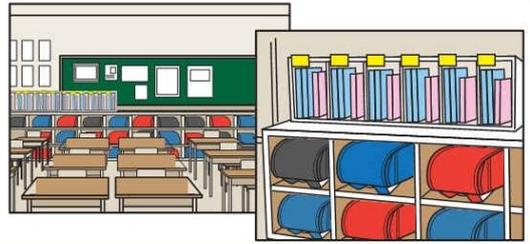


ユニバーサルデザインの取組についてQ&A



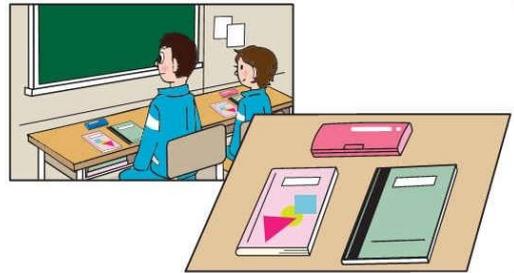
どの教室にも整理・整頓が苦手な児童生徒が複数います。どのようにしたら、自分自身でできるようになりますか？

教室のロッカーの使い方や、本や物の整理の仕方、掲示計画を学校で統一します。担任や教室が変わっても、教室の基本的な使い方は変わらないので、児童生徒は混乱せずに使うことができます。小学校の低学年の場合は、整理の仕方が分かるように「色分けをすること」や「仕切りを作ること」などの個別の支援が有効なこともあります。



授業開始直前になってトイレに駆け込んだり、忘れ物の報告に来たりする児童生徒がいます。個別の対応に追われて、定刻に授業を始めることができません。どの児童生徒も落ち着いて授業を始めることができる方法がありますか？

休み時間の過ごし方を具体的に指導することが有効です。例えば、学習の準備をいつするのか、また、机の上には何をどのように準備するのか決めておくと、授業がスムーズに始められ、授業の内容に集中できるようになります。あわせて時間前着席についても指導し、発達段階に応じて、その過ごし方についても指導すると、どの児童生徒も気持ちを切り替えて授業に参加できるようになります。



宿題や提出物を、いつも提出しそびれてしまう児童生徒が複数います。どのように工夫したらよいでしょうか？

宿題や提出物などを「いつ」「どこに」提出するのか、学級または学年で共通のルールにしましょう。学級には、臨機応変に対応することが苦手な児童生徒も多く見られます。その日ごとに提出の時間や場所が異なると、対応することが難しくなります。そこで、「いつ」「どこに」提出するのかを決めて、全員で取り組むようにすると、出しそびれてしまう児童生徒が少なくなります。

困り感を感じている A さん・A さんの保護者から

道具箱の整理ができなかった時、先生が「のり」や「はさみ」の場所を紙に書いて箱の中に貼ってくれたので、片付けることができました。分かりやすい表示で、一人でできることが一つでも増えるとうれしいです。

困り感を感じている
A さんから



「あたりまえ」と思われることを理解するのが難しい子たちでも、分かりやすい表現で学校の環境が整えられることで、戸惑う場面が少なくなると思います。子どもたちが楽しく過ごせるように、多くの工夫が取り入れられるとうれしいです。

A さんの保護者から





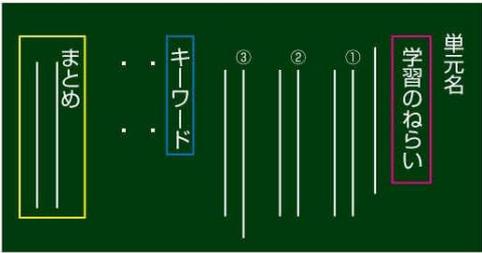
クラスの中に、発問や指示を何度も聞き直す児童生徒がいます。そのような場合は、どのようにしたらよいでしょうか。

一度注意を引き付けてから、指示を出すとよいでしょう。注意を向けることが難しかったり、周囲がざわざわしていると教員の声が聞こえなかったりする児童生徒がいます。また、黒板に書くなどの視覚的な支援をすることで指示を理解し行動できるようになることがあります。



どの児童生徒も、授業の内容をきちんと理解できる板書の仕方を教えてください。

板書の見た目やレイアウトがとても大切です。余白や行間、改行なども有効です。さらに、文章の羅列だけでなく、キーワードやキーセンテンスを抜き出すことで、分かりやすくなります。常に児童生徒たちにとっての「見やすさ・分かりやすさ」を意識することで、良い板書ができるようになります。

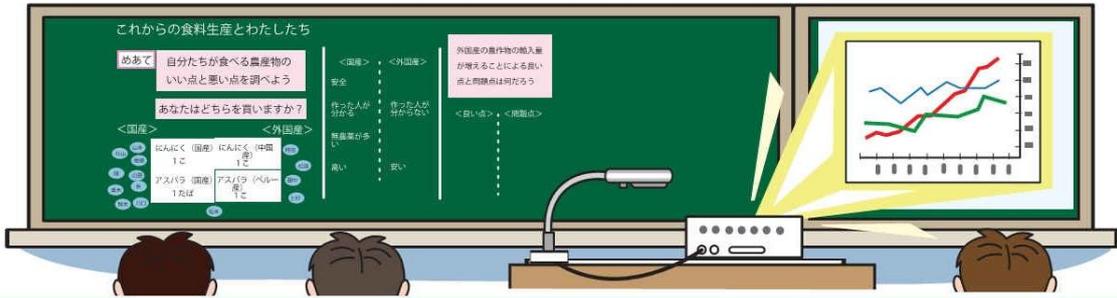


板書(例)



授業で視覚化を図ろうと工夫していますが、ともすると黒板が資料でいっぱいになってしまい、かえって児童生徒たちが混乱していることがあります。効果的な視覚化の実践例を教えてください。

視覚化というと写真や絵カード等をすぐに思い付きますが、動作化やICTの活用、大切なポイントを指差しするなど視覚化になります。授業のねらいを達成するために視覚化を効果的に用いるようにします。例えば、下記の授業では、黒板に提示すると煩雑になるので、グラフは実物投影機で映しました。場面を切り替えて見せることで、注目してグラフを読み取ることができるようになりました。



■ 実践のポイントは

ユニバーサルデザインの考え方を活用することは、教科のねらいの質を下げることではありません。教科の押さえたねらいに向けて、多様な学び方をする児童生徒がねらいに到達するための段差を少なくすることです。学級に在籍している児童生徒の状況に応じて支援方法は異なります。実践例を挙げましたが、大切なのは、目の前の児童生徒の困難さに寄り添って全ての児童生徒が「楽しい」「分かる」「できる」と感じられる生活づくり・授業づくりを実践することです。

生活づくりチェックリスト (ユニバーサルデザインの生活づくり・授業づくり)

できている項目に○印をつけましょう

I 学習環境

① 教室の環境整備	1	教室の整理・整頓を心がけ、不要な物を置いていない	
	2	前面の黒板とその周りを整理・整頓している	
	3	児童生徒の机の中やロッカーの使い方を決めて、統一している	
	4	授業で使うファイルや資料の置き場所を決めている	
	5	教室の移動や下校前に机の周りの整理・整頓をさせている	
	6	月や週の予定を掲示し、必要な学習用具やスケジュールを知らせている	
	7	今日1日のスケジュールを提示して、朝の会で確認している	
	8	集中力を高める位置や人間関係に配慮して、座席やグループを決めている	
② 学習の準備	9	授業前、黒板がきれいに消されている	
	10	忘れ物があった時の援助の求め方を教え、対処方法を準備している	
	11	授業開始時刻に席に座り、教科書などを見て待つことを指導している	
	12	授業の開始前に必要な用具が準備されているか、確認している	
	13	開始時刻と終了時刻を守り、あいさつをしている	
	14	机上の教科書・ノート・筆箱について置く位置が決まっている	
	15	筆箱に入れる物が決まっている	

II 学級づくり

③ ルール	16	児童生徒たちは、学校の生活の仕方やルールを分かっている	
	17	学級内のルールはシンプルで誰もが実行できる内容に設定している	
	18	ルールを守っている児童生徒を多様な方法で取り上げ賞賛している	
	19	個別の支援について学級のメンバーが理解している	
	20	学級内での役割(例 当番、係)についての行動の手順・仕方など(例 手順表、マニュアルなど)が示されている	
	21	宿題の取組方や宿題の提出方法、場所が決められている	
	22	教室にいるスタッフ(支援員など)とそれぞれの役割や責任の分担が共通理解されている	
④ 温かい学級	23	一人一人の困り感を把握している	
	24	児童生徒たちには居場所があり、認められているといった安心感がある	
	25	友達の良さや努力していることを見つけ、認めることができた児童生徒を賞賛している	
	26	一人一人の良さを具体的に紹介し合い、認め合う機会をつくっている	
	27	活動意欲をそぐような発言や不適切な発言には、望ましい発言の仕方を教え、訂正させている	
	28	児童生徒の特性や長所を生かした活動を設定している	
	29	トラブルがあった時の解決方法を示し、児童生徒同士でも解決できるように教えている	
	30	学級全体で「○○なクラスにしよう」という意識をもたせている	



授業づくりチェックリスト (ユニバーサルデザインの生活づくり・授業づくり)

できている項目に○印をつけましょう

Ⅲ 授業の基礎技術

① 教員の話し方・発問や指示	1	児童生徒の頑張りを認め、肯定的な表現で話しかけている	
	2	指示などは聴覚的（言語）だけでなく視覚的（板書など）に提示するようにしている	
	3	抽象的な表現、あいまいな表現を避け、具体的な表現をするようにしている	
	4	全体への発問や指示、個別の声かけなどを確認している	
② 板書やノート・ファイル	5	授業の流れや内容が分かる板書を構成している	
	6	板書は教室の後ろの児童生徒からも見えるような文字の大きさ、行間にしている	
	7	ノートに取りやすい板書をしている	
	8	ノートの取り方やファイルの整理の仕方を指導している	
③ 教材・教具	9	提示する内容をより分かりやすくするための教材・教具にしている（具体物・写真・絵・動画・ICT機器など）	
	10	学習で使うプリントやワークシートは、読んだり書いたりしやすいようにしている	

Ⅳ 授業の工夫

④ 焦点化・視覚化・共有化	11	単元や本時の始めに、学習の流れを提示し、児童生徒が見通しをもって取り組めるようにしている	
	12	授業のねらいに即して、活動を焦点化している	
	13	授業のねらいに即して、視覚化を図っている	
	14	展開では、主体的な学びを保障するための学習活動の時間配分を工夫している	
	15	授業のねらいに即して、ペア学習、グループ学習、一斉学習など、様々な学習形態を工夫している	
	16	どの児童生徒も発表できる機会をもてるようにしている	

Ⅴ 個別の支援

⑤ 個別の支援	17	気になる児童生徒についてつまずきを把握している	
	18	気になる児童生徒のつまずきに対する支援を講じている	
	19	気になる児童生徒のつまずきに対する支援について評価・改善している	

先生方に知っておいてほしい、発達に凸凹のある児童生徒たちの特性

発達に凸凹をもつ児童生徒たちは、健常な児童生徒とはとても異なった認知の特徴をもっていることがあります。例えば特定の音にとっても過敏であったり、触れられることに苦痛を感じたりする子もいます。社会的な行動を行うためには、沢山の情報を一度に理解し判断する力が必要ですが、この様なことが大変苦手です。また予定が急に変わったりすると、著しく混乱する子も少なくありません。スケジュールを逆算したりすることも苦手ですし、長時間の集中ができない子もいます。そして知的な遅れがないのに、普通のやり方で学習の成果が上がらない子がしばしば認められます。今日ではこういった発達の凸凹には、軽いものから重たいものまで全てのレベルがあることがはっきりしてきており、障害と非障害という具合に明確な線を引くことは困難になりました。学習によって知的な能力が上がり下がりするように、発達の凸凹も、本人に合わせた教育によって軽くすることが可能です。何よりも大切なことは、児童生徒の学力や理解力に合わせ、個別の対応を組んでいくことです。発達の凸凹を抱えた児童生徒において、きちんと学習に取り組んでいることほど本人を伸ばし、やる気を引き出すものは他にありません。学習のつまずきを見過ごさず、発達の凸凹をもつ児童生徒の学習を支えていきましょう。

浜松医科大学児童青年期精神医学講座
特任教授 杉山 登志郎氏



教育領域から考えるユニバーサルデザインの有効性

現在、小・中学校の通常の学級には発達障害が疑われる子どもが6.5%程度、在籍していると推定されています。その他にも、聴覚障害や肢体不自由など、さまざまな障害のある子どもたちが学んでいます。勉強が苦手な子、忘れっぽい子、飽きっぽい子、乱暴な子など障害とはいえないまでも支援や配慮が必要な数多くの子どもたちもいます。もちろん子どものニーズに応じた個別的な配慮や支援は必要です。しかし、その基盤には障害がある・ないにかかわらず、どんな子どもにとっても安心して生活できる学校・学級の環境づくりや、分かる・できると思える授業実践が大切になります。それを目指しているのがユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校づくり・学級づくり・授業づくりなのです。

今、全国各地で、そして県内で、教育のユニバーサルデザイン化に取り組む学校が徐々に増えています。そして着実に成果を上げています。本リーフレットには、教育のユニバーサルデザイン化のエッセンスがつまっています。まずはチェックリストを活用して学校の教職員みんなで共通理解を図ることから始めてみてはいかがでしょうか。

静岡大学教育学部教授 大塚 玲氏



センターはこんな時に役立ちます！

リーフレットの活用についてもっと知りたい

- ・センターホームページで「活用の仕方が分かる動画」を配信中

発達障害に関する研修会に参加したい

- ・「ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業」
- ・「発達障害の理解と支援」
- ・「認知特性に配慮した学習指導」
- ・「社会性を育てる指導・支援」など（※平成27年度の研修）
- ・研修ガイドブックを御覧の上、お申し込みください。

●問い合わせ先

静岡県総合教育センター
専門支援課特別支援班

TEL 0537-24-9755

URL <http://www.center.shizuoka-c.ed.jp/>

